11/23 香川県歯科医師会・香川県介護支援専門員協議会合同研修会

「認知症の人の食が美味しく楽しく安全であるように
～健やかな口腔を通じた支援～」

東京都健康長寿医療センター研究所
自立促進と精神保健研究チーム　認知症と精神保健研究室
歯科医師/研究員　枝広　あや子　先生

認知症の方にとって、生活の中で食事を楽しむことは、生活の質を保つうえでも非常に重要です。進行に伴い日常生活行動の自立が困難になっていく中で、ご本人にとっての「食」は最後の自立行動であり、その支援は多職種による多角的な視点と連携をもって可能になります。認知症ケアを考えることは決して他人ごとではなく、自分の未来を考えることでもあります。

認知症の発症からゆっくりと進行する神経変性は、次第に動作の協調性の低下や廃用に伴う筋肉量低下、生活行為の自立の低下を起こし、そして自分自身を健やかに保つ機能を障害していきます。認知症の原因疾患、進行と経過に伴う身体機能低下および口腔機能低下のイメージを把握することで、それぞれの認知症の方のこれからの機能低下を予測した、予知的な支援計画を立てることが可能になります。

我々が食事を楽しむには、実際には様々な脳や身体の機能の協調が無意識になされています。しかし認知機能の低下に伴い、その無意識の統合は徐々に困難になり、それぞれの機能が協調して働くことが困難となります。こうした認知症の方の実行機能障害による摂食行動の障害に対して、自立摂食を支える専門職は、彼らが何につまずいているかを察して、ストレスがかからないようにさりげなく支援する必要があります。そして重度認知症に至っては、口腔咽頭の協調運動にまで障害が生じることで、咀嚼が不完全になり口腔内の移送は協調を失い、嚥下反射の惹起遅延が生じるようになります。こうした認知症高齢者の摂食嚥下障害はまた、本人の機能障害のみならず環境因子や身体状況の変化によっても大きく影響されることが知られています。変化の背景を推察し、“ご本人にとって適切な環境”を創り出すことが、支援の要点でもあります。適切な環境に、健やかな口腔状態が含まれることは言うまでもありません。様々な困難とともに歩む認知症の方とご家族にとって、必要なことは、一人の人間として大切にされること、生活、そして人生のあり様を受け止めてもらい、そのうえで状況に見合った支援を得られ、希望を見出せることです。認知症の方の特性や望む生活に合わせた支援を、本人や家族、関わる多職種で相談しながら実現していくことが大事です。

認知症の方の症状の背景にあるものが何かを推し量り、そのうえで適切な知識をもって食と口腔の支援に活かすことができる、そんなケアにつなげられる研修会になればと思います。

【略歴】
1978年生まれ
平成15年　北海道大学歯学部卒業
平成15年　東京都老人医療センター　歯科・口腔外科　臨床研修医
平成17年　東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学講座　入局
平成20年　京都健康長寿医療センター研究所　協力研究員
平成23年　学位取得、博士（歯学）東京歯科大学
平成24年　東京都豊島区歯科医師会　東京都豊島区口腔保健センター
　　あぜりあ歯科診療所勤務
　　東京都健康長寿医療センター研究所　非常勤研究員
　　東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学講座　非常勤講師
平成27年　東京都健康長寿医療センター研究所　研究員
令和4年　北海道大学非常勤講師
現在に至る

【所属学会】
日本老年歯科医学会　認定医　摂食機能療法専門歯科医師
日本咀嚼学会　健康咀嚼指導士
日本口腔外科学会
日本摂食嚥下リハビリテーション学会　認定士
日本静脈経腸栄養学会所属　TNT研修終了
認知症の人の食支援研究会
日本老年医学会　TNT-Geri修了　高齢者医療研修会修了　高齢者栄養療法認定医
日本認知症学会
日本認知症ケア学会
日本歯科衛生学会
日本老年精神医学会
日本在宅栄養学会
専門は　老年歯科医学、口腔外科学など